

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	有限会社アマランス		
事業所名	グループホームあまらんす2号館 1F希		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0192500064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

赤井川の四季折々の美しい風景と恵まれた環境の中で暮らし、地域の方々と顔見知りとなり、交流を深めて共に支え合える関係になりました。村の行事のひな祭り交流会に参加したり、高齢者交流会、敬老会、一町内交流会、文化祭には、利用者様の作った作品を出品させて頂くなど、積極的に交流活動をしております。また、あまらんす夏祭りには、ご近所様をお招きしたり、村の関係者にもお越し頂き、あまらんすでの介護支援の様子や、利用者様ががんばっている姿を見て頂くことで地域密着型の介護施設として認めて頂けるように努力しています。また、農業が中心の村ですので地場産物で採れたての食材を使った料理を味わって頂くことで、地産地消を心掛け、村民の皆様と共に支え合える関係づくりを進めています。そして、「日本で最も美しい村」の一つでもある赤井川村にも道の駅が出来ましたので、利用者様をお連れして、お食事や、地元の皆様で作った展示品を見て楽しんだりしております。こうして村民の方々と触れ合いながら交流を保ち、より良い施設にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな丘陵が周囲を囲む赤井川村の中心部近くにある2階建て2ユニットのグループホームである。建物内は明るく清潔で、居間の大きな窓からの景色もよい。浴室やトイレ、洗面所、エレベーターなど設備が充実し、季節の装飾や温かみのある家具、調度品が配置されている。村の様々な行事に利用者が参加し、事業所の夏祭りに多数の住民の参加を得ている。運営推進会議には役場の他、町内会関係者や消防署、社会福祉協議会など多数の参加を得ている。家族への情報提供の面では、3か月毎の家族宛のお便りに事業所全体のページと個人のページを作り、利用者の様子を詳しく伝えている。毎月、ミーティングや内部研修を行い、職員同士のコミュニケーションが取りやすく、長く勤める職員が多いのも特徴である。医療支援の面では、適切な受診支援を行うとともに、受診記録の他に受診時の医師への情報提供や受診内容を詳しく記した「受診説明記録」を作成し、情報を共有している。食事は、事業所独自のメニューで、できるだけ地域の食材を使いながら彩りがよく美味しい食事が提供されている。外出支援の面では、事業所前で日常的な外気浴を行い、年間行事では花見や果物狩り、温泉入浴、ドライブなどが豊富に設定されている。居心地のよい空間と豊かな自然環境のもと、快適に過ごすことができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で話し合い作り上げた理念を事務所やリビング、休憩所に掲示し、常に意識しながら理念の共有をはかり実践し、振り返りながら反省も含めてミーティングなどで話し合い、日々の業務の向上を目指しています。	介護スタッフの理念の中に「地域に根ざしたホームを目指します」という文言があり、地域密着型サービスを意識したものとしている。理念を事務所やユニット入り口に掲示し、月1回のミーティングで確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内のお祭りの前日の準備や、神社の掃除の手伝いをしたり、また文化祭には利用者の方が制作した作品を出品したり、毎年行っています「あまらんす夏祭り」などに、沢山の方が参加して下さり地域の方と交流を深めています。	村の「歩こう会」「交流会」「ひなまつり」などの行事に利用者と一緒に参加している。事業所の夏祭りに多数の住民の参加を得ている。また、ひょっとこ踊りやフォークダンスなどのボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多種多様な症状がある、認知症の方と関わり方を村の方との交流の中で、触れ合う様子を見て頂き理解してもらえよう努めています。地域ケア会議などに参加しながら、今後の改善策について、意見交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、ホームの近況報告や、避難訓練の注意事項等についてもご意見を頂き、取り入れています。	運営推進会議を2か月毎に開催し、役場職員、町内会長、区会長、消防署、社協、町内会役員の参加を得ている。家族は年数回参加している。防災や感染症、行事などで意見交換しており、議事録を家族に送付している。	引き続き家族の参加を呼びかけるとともに、難しい場合は来訪時などに意見をj得て、会議に反映することを期待したい。また、計画的に会議のテーマを設け、テーマ関連の資料を配布するなどして活発な意見交換の場となることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	夏祭りの際には、祭りの趣旨に賛同して頂き、ボランティアなどの協力を得ています。また、祭りの際に使用する備品に関しましても、行政からの協力を得て借り受け進行しています。村長さん、副村長さん等の参加協力もあります。	運営推進会議に役場や消防署の参加を得て情報提供を受けている。また、役場が主催する「地域ケア会議」に参加し、情報交換を密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行っていませんが、身体拘束の禁止(11項目)を、事業所内の数か所に掲示しています。また、内部研修時スタッフに読み上げてもらいながら、意識向上に活かしています。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意し、今年度は勉強会も行った。11項目の禁止行為は事務所にも掲示している。玄関は日中開いており、利用者の出入りは見守りで把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待ということについて、スタッフがいつも問題意識を持ち、ミーティングで虐待に繋がるであろう不適切なケアが、日ごろ自分達の、介護の中にあるかどうか、スタッフ同士注意を払いながら、虐待防止に努めている。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する方の入居がないため、していません。今後当該施設でも必要になる場合があると思いますので、研修会等に参加し、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読みあげる際詳しく説明し、理解、納得して頂けるよう努めています。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安のないよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子から察知し、スタッフが優しい心を持って、不満な事や要望など引きだすように努めています。その意見を大切に、家族が来訪した際には、その思いなどを報告し、運営に反映させています。	半分ほどの家族は毎月来訪があり、その際に面談して意見を聞いている。家族の意見を業務日誌に記録し、共有している。3か月毎の家族宛のお便りに事業所全体のページと個人のページを作り、利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングや内部研修や計画作成のモニタリングやカンファレンスで、話し合い意見を集約し反映出来るよう努めています。また、年2回個別面談を行い、職員の意見や提案を聞く場を設けています。また、連絡帳を活用し日々聞く機会を設けています。	月1回のミーティングや内部研修に職員全員が参加している。職員は年2回の個人面談の他いつでも管理者や副施設長などに意見を伝えることができる。職員は行事や健康管理、身体拘束・虐待廃止などの係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績に対して、個人面談の機会を設け、評価を行っています。また、労働時間に関しても、本人の希望に添えるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるような勤務を組んだり、1人でも多くの職員が参加するよう働きかけています。受けてきた研修は、内部研修で発表することにより、他の職員にも広げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加しています。また、グループホーム協議会での、意見交換や事例検討の場に参加し、サービスの質の向上へ繋がるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てのスタッフが理念に沿った介護を心掛け、情報収集をしながら会話する時間を多くし、利用者様が安心し、信頼できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の事で家族への連絡時(電話等)や、家族の施設訪問時に相談や要望などされた場合は、いつも対応できるようにしています。管理者が対応できない時は、職員が代わりに対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から病歴などを、伺いながら介護計画書を作成しています。また、その都度、必要としている支援については、随時検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人ひとりの過去より、得意な事を会話から知り、日々に活かせるものは、スタッフが「教えて頂く」立場で一緒に生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでも家族との連絡を密にし、本人にとって良いと思う事を検討しながら、協力していける体制を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	村内出身の方ばかりではないため、なじみの場所が遠い方も多いです。家族の方々に協力を得ながら、住み慣れた地域や自宅への帰省など、可能な限り行っています。また、通院の際なども、住み慣れた町を通ったりし、楽しんでもらえるように支援しています。	4名ほどの利用者に親戚や昔近所に住んでいた知人が来訪している。村の行事に参加する際にも知人に会うことができる。家族と一緒に墓参りに出かけた。職員と道の駅やカルデラ温泉などの馴染みの場所に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり、会話に賛同したり、趣味が合う利用者様同士が、関わり合うことで信頼関係ができるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じて支援できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成の際は、本人や家族の要望や困っていることに沿って作成するように努めています。その都度の訴えには、話を聞きながらできる限り本人の希望に添えるよう適宜対応するようにしています。	3割ほどの利用者は思いや意向を表出でき、難しい方の場合も表情や仕草から意向を把握している。フェイスシートやアセスメントシートを作成しており、生活歴や暮らしの様子を記入するシートも整備を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院より情報を頂いています。また、本人や家族より話を伺い、フェイスシートに記入し、把握できるよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方を介護日誌やバイタル表に記載し、特に重要な変化については連絡ノートを活用して、職員全員が共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を適宜開催しています。本人や家族の希望・困っていること、また、主治医やスタッフの意見も考慮し、現状の把握と課題の解決については、介護日誌や連絡ノートを活用し、職員全員が共有できるよう努めています。ミーティングや内部研修を月1回行い、話し合いをし状況の把握をしています。	介護計画を3か月毎に更新している。毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議で意見を集約して次の計画を作成している。日々の記録は、毎日の介護日誌の裏に計画目標に沿った支援経過を詳しく記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきについては、介護記録の他にも、スタッフ間の連絡ノートを用い、管理者やケアマネ、スタッフが気づいたことを書き、そのノートを確認することで全員が把握できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観桜会や楓風会など、家族、利用者、スタッフとの交流会に、自社で運営している温泉を利用し、親交を深めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある区会、消防の方々に、日頃より協力、指導頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医であった病院へ通院できるよう支援しています。遠方で難しい場合には、事業所の協力医とも相談し、継続できるように働きかけています。受診の際は受診表を作成し、バイタルや状況の変化を記入し提示しています。	眼科と歯科の往診を受け、内科などは通院受診している。通院は家族または事業所が送迎し、家族が送迎する場合も職員が同行している。受診記録の他に受診時の医師への情報提供や受診内容を詳しく記した「受診説明記録」を作成し、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的にご利用者様と関わり、相談を受けたり、生活リハビリの指導など行っています。また、受診の際主治医の指示を、介護職員に適切な報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、こまめにお見舞いに伺い、元気になれるよう声を掛けたり、状況の把握を行っています。また家族や医師、看護師等とも連絡を取りながら、早期退院に向けて働きかけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した利用者の家族には、密に連絡を取り合い、面会時は日常生活の様子をより具体的に説明していきます。状況が大きく変化した利用者に関しては、家族と話し合いの場を設け、必要に応じた同意書を交わしています。	利用開始時に「看取りの体制と実施方針」を説明し、同意の上契約書を取り交わしている。食事の経口摂取が難しくなった場合や医療行為が必要な場合は事業所での対応が難しく、医療機関に移る旨を家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応できるよう心がけています。また、消防の協力を得ながら、救急救命の講習を受けたりして、緊急時の対応ができるよう心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち会いのもと、訓練終了後、安全に避難が行えるよう助言などを頂いています。通報訓練についても、いろいろ検討しながら、職員の意識向上につなげられるよう努めています。	消防署や地域の協力を得て夜間想定避難訓練を年2回実施している。職員の救急救命訓練を定期的に行い、備蓄品も用意している。地震や水害等のマニュアルの共有化を進めている。	地震や水害等火災以外の対応について、マニュアルにある「防災の手引き」や消防等の資料を参考に年1回程度、職員間で確認の機会を持つことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の権利擁護について、月1回のスタッフミーティングの際に「職員倫理規定」に基づく行動指針の読み合わせをしながら確認をしています。毎月行うことで、新しいスタッフが入っても常に確認し合えるように努め、人格や個人のプライバシー保護を徹底するよう統一しています。	認知症のコミュニケーション研修を実施し、適切な言葉使いを勉強している。利用者の呼び方は苗字に「さん」を付けて失礼のないよう対応している。記録等は事務所にて記入し、リビングの目につかない場所で保管している。申し送り時の個人名も特定されないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら身振り手振りや筆談等でコミュニケーションを取り、なるべく近くで話し掛けるなど、自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で訴えられない方もおりますが、トイレの誘導等も1人ひとりのサイクルに合わせ、その方に合ったタイミングで行うなど、生活の様々な場面において無理強いすることなく、時間をかけて再度声掛けする等の工夫をしながら1人ひとりのペースを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理・美容の方へきて頂いています。自分で洋服を選んで着られる方には、毎朝、洋服を選んで頂いています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜や山菜など旬のものを、どのようにして食べたらおいしいか、利用者と一緒に考えたりしています。また、どんな物が食べたいのかを聞きながら、献立に取り入れています。	握り寿司の実演や外食行事で普段の献立にないものを食べている。献立や調理の専門職員が勤務しており、ぼた餅や冬至のカボチャ料理など季節を感じるものを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取の量を記載、把握し体調に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行って頂いています。舌ブラシなども、使用してきれいな状態を維持し、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入、確認しながら声かけ等行い、便座に座って頂き、気持ちよく排泄ができるよう支援を行っています。ウォシュレットなどを利用し、排便を誘導するなどして、できるだけ失禁しないよう取り組んでいます。	水分量・トイレ回数表から介護日誌とバイタルチェック表に転記し、利用者ごとの排泄パターンを把握している。適切なトイレ誘導をしており、利用者の羞恥心に配慮して失敗の少ないケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ノートで排便間隔をチェックしています。毎朝ヨーグルトを食事につけたり、午前の水分補給に牛乳を飲み、便秘予防を行っています。また、医療機関に相談し薬を処方して頂きながら調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯等、ご本人の意思を尊重し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。また、馴染みの会話をしながら楽しんで入浴ができるよう心掛けています。	午後の時間帯に利用者ごとに月木、火金、水土と週2回の入浴日を設け、拒否がある場合は言葉かけの工夫でスムーズに入浴を促している。湯船に浸かれない利用者にもシャワーミストで気持ちのよい入浴ができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、優しく穏やかな関わりを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のマニュアルを利用して理解し事故のないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の重度化により、自分でできる事が限られていますが、洗濯物をお渡しするとダンスに片づけて下さる方もいます。また、皆が参加できるような行事を数回に分け外食に出かけたり、個々に合った企画をしながら、楽しめるよう支援しています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F希)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフや、利用者の家族とも相談しながら、近所の散歩や行事での外出や外食また、本人に欲しい物がある時には、本人をお連れし買い物して頂いてます。お盆のお寺・お墓参り、お正月の帰省等、できる限り希望に添えるよう支援しています。	事業所前で機能低下予防の体操や庭のブルーベリ一摘みをしている。ドライブを兼ねた外食や通院帰りに自宅や懐かしい場所に寄っている。村の交流会や歩こう会、ひな祭り交流会、道の駅、山中牧場、観桜会、カルデラ温泉に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の希望や力に応じ、行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡や兄弟・知人へのお手紙等、切手やはがきを購入するなどの支援を行っています。また、耳の聞こえが不自由な方には、本人を交えながら代わりに代弁しながら支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、四季折々の壁掛けや置物を置き、季節を感じられるようにしています。また、不快にならないようにトイレなども細めに掃除しています。大きな音をださないように、ゆったりと過ごして頂けるような工夫をしています。	掃除の行き届いた共有空間の壁に職員手作りの季節の飾りや利用者の作品が掲示されている。リビングのテレビ前にソファがあり、好みの場所で自由に過ごしている。空気清浄機や廊下に濡れタオルを掛けて湿度を調整し、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いソファや椅子を多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮しています。また、玄関前などにも椅子を置いて、1人になれる空間や居場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持参や、居室内での動線を考慮しながら、本人の生活に合ったその方らしい居室作りができるよう支援しています。居室にのれんを設置するなど、プライバシーに配慮しながら、居室内の風通しを良くし温度調整を行っています。居室内には温度・湿度計を設置し、乾燥する時期などにも適宜加湿器やタオルなどを使って湿度を保つように配慮しています。	どの部屋からも自然を間近に感じられる。読書好きの利用者は本棚に好きな単行本を用意している。従前から使っていた物品やテレビ、懐かしい写真、ぬいぐるみ、タオル掛け等がある。夫婦で入居している利用者は寢室を同室にして安心して暮らせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札をかけ、わからない方には花や写真など、目印になるものをつけています。また、お手洗いの場所がわかるように、お手洗いの目印を張り付けています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500064		
法人名	有限会社アマランス		
事業所名	グループホームあまらんす2号館 2F夢		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

赤井川の四季折々の美しい風景と恵まれた環境の中で暮らし、地域の方々と顔見知りとなり、交流を深めて共に支え合える関係になりました。村の行事のひな祭り交流会に参加したり、高齢者交流会、敬老会、一町内交流会、文化祭には、利用者様の作った作品を出品させて頂くなど、積極的に交流活動をしております。また、あまらんす夏祭りには、ご近所様をお招きしたり、村の関係者にもお越し頂き、あまらんすでの介護支援の様子や、利用者様ががんばっている姿を見て頂くことで地域密着型の介護施設として認めて頂けるように努力しています。また、農業が中心の村ですので地場産業で採れたての食材を使った料理を味わって頂くことで、地産地消を心掛け、村民の皆様と、共に支え合える関係づくりを進めています。そして、「日本で最も美しい村」の一つでもある赤井川村にも道の駅が出来ましたので、利用者様をお連れして、お食事や、地元の皆様が作った展示品を見て楽しんだりしております。こうして村民の方々とふれあいながら交流を保ち、より良い施設にしていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0192500064-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士で話し合い作り上げた理念を事務所やリビング、休憩室に掲示し、常に意識しながら理念の共有をはかり実践し、振り返りながら反省も含めてミーティングなどで話し合い、日々の業務の向上を目指しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	村内のお祭りの前日の準備や、神社の掃除の手伝いをしたり、また文化祭には利用者の方が制作した作品を出品したり、毎年行っています「あまらんす夏祭り」などに、沢山の方が参加して下さり地域の方と交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多種多様な症状がある、認知症の方と関わり方を村の方との交流の中で、触れ合う様子を見て頂き理解してもらえよう努めています。地域ケア会議などに参加しながら、今後の改善策について、意見交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、ホームの近況報告や、避難訓練の注意事項等についてもご意見を頂き、取り入れています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	夏祭りの際には、祭りの趣旨に賛同して頂き、ボランティアなどの協力を得ています。また、祭りの際に使用する備品に関しましても、行政からの協力を得て借り受け進行しています。村長さん、副村長さん等の参加協力もあります。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本的には行っていませんが、身体拘束の禁止(11項目)を、事業所内の数か所に掲示しています。また、内部研修時スタッフに読み上げてもらいながら、意識向上に活かしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ということについて、スタッフがいつも問題意識を持ち、ミーティングで虐待に繋がるであろう不適切なケアが、日ごろ自分達の、介護の中にあるかどうか、スタッフ同士注意を払いながら、虐待防止に努めている。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当する方の入居がないため、していません。今後当施設でも必要になる場合があると思いますので、研修会等に参加し、支援していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を読みあげる際詳しく説明し、理解、納得して頂けるよう努めています。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安のないよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子から察知し、スタッフが優しい心を持って、不満な事や要望など引きだすように努めています。その意見を大切に、家族が来訪した際には、その思いなどを報告し、運営に反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングや内部研修や計画作成のモニタリングやカンファレンスで話し合い、意見を集約し反映出来るよう努めています。また、年2回個別面談を行い、職員の意見や提案を聞く場を設けています。また、連絡帳を活用し日々聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績に対して、個人面談の機会を設け、評価を行っています。また、労働時間に関しても、本人の希望に添えるよう配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるような勤務を組んだり、1人でも多くの職員が参加するよう働きかけています。受けてきた研修は、内部研修で発表することにより、他の職員にも広げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間のネットワークに入会し、研修会に参加しています。また、グループホーム協議会での、意見交換や事例検討の場に参加し、サービスの質の向上へ繋がるよう取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てのスタッフが理念に沿った介護を心掛け、情報収集をしながら会話する時間を多くし、ご本人が安心して、信頼できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の事で家族への連絡時(電話等)や、家族の施設訪問時に相談や要望などされた場合は、いつも対応できるようにしています。管理者が対応できない時は、職員が代わりに対応できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から病歴などを、伺いながら介護計画書を作成しています。また、その都度、必要としている支援については、随時検討しながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人ひとりの過去より、得意な事を会話から知り、日々に活かせるものは、スタッフが「教えて頂く」立場で一緒に生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでも家族との連絡を密にし、本人にとって良いと思う事を検討しながら、協力していける体制を取っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	村内出身の方ばかりではないため、なじみの場所が遠い方も多いです。家族の方々に協力を得ながら、住み慣れた地域や自宅への帰省など、可能な限り行っています。また、通院の際なども、住み慣れた町を通ったりし、楽しんでもらえるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり、会話に賛同したり、趣味が合う利用者様同士が、関わり合うことで信頼関係ができるような支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、今までの関係性を大切にしながら、必要に応じて支援できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプラン作成の際は、本人や家族の要望や困っていることに沿って作成するように努めています。その都度の訴えには、話を聞きながらできる限り本人の希望に添えるよう適宜対応するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでに利用していた事業所や病院より情報を頂いています。また、本人や家族より話しを伺い、フェースシートに記入し、把握できるよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの過ごし方を介護日誌やバイタル表に記載し、特に重要な変化については連絡ノートを活用して、職員全員が共有できるようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を適宜開催しています。本人や家族の希望・困っていること、また、主治医やスタッフの意見も考慮し、現状の把握と課題の解決については、介護日誌や連絡ノートを活用し、職員全員が共有できるよう努めています。モニタリングについては月1回行い、実施状況の把握をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきについては、介護記録の他にも、スタッフ間の連絡ノートを用い、管理者やケアマネ、スタッフが気づいたことを書き、そのノートを確認することで全員が把握できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	観桜会や楓風会など、家族、利用者、スタッフとの交流会に、自社で運営している温泉を利用し、親交を深めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内にある区会、消防の方々に、日頃より協力、指導頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ今までのかかりつけ医であった病院へ通院できるよう支援しています。遠方で難しい場合には、事業所の協力医とも相談し、継続できるように働きかけています。受診の際は受診表を作成し、バイタルや状況の変化を記入し提示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフからの報告を受け、看護師が定期的に利用者様と関わり、相談を受けたり、生活リハビリの指導など行っています。また、受診の際主治医の指示を、介護職員に適切な報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、こまめにお見舞いに伺い、元気になれるよう声を掛けたり、状況の把握を行っています。また家族や医師、看護師等とも連絡を取りながら、早期退院に向けて働きかけています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、重度化した利用者の家族には、密に連絡を取り合い、面会時は日常生活の様子をより具体的に説明していきたいです。状況が大きく変化した利用者に関しては、家族と話し合いの場を設け、必要に応じた同意書を交わしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、対応できるよう心がけています。また、消防の協力を得ながら、救急救命の講習を受けたりして、緊急時の対応ができるよう心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち会いのもと、訓練終了後、安全に避難が行えるよう助言などを頂いています。通報訓練についても、いろいろ検討しながら、職員の意識向上につなげられるよう努めています。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の権利擁護について、月1回のスタッフミーティングの際に「職員倫理規定」に基づく行動指針の読み合わせをしながら確認をしています。毎月行うことで、新しいスタッフが入っても常に確認し合えるように努め、人格や個人のプライバシー保護を徹底するよう統一しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら身振り手振りや筆談等でコミュニケーションを取り、なるべく近くで話し掛けるなど、自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で訴えられない方もありますが、トイレの誘導等も1人ひとりのサイクルに合わせ、その方に合ったタイミングで行うなど、生活の様々な場面において無理強いすることなく、時間をおいて再度声掛けする等の工夫をしながら1人ひとりのペースを尊重しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、理・美容の方きて頂いています。自分で洋服を選んで着られる方には、毎朝、洋服を選んで頂いています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で採れた野菜や山菜など旬のものを、どのようにして食べたらおいしいか、利用者と一緒に考えたりしています。また、どんな物が食べたいのかを聞きながら、献立に取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分摂取の量を記載、把握し体調に配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を行って頂いています。舌ブラシなども、使用してきれいな状態を維持し、誤嚥性肺炎の予防に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄チェック表に記入、確認しながら声かけ等を行い、便座に座って頂き、気持ちよく排泄ができるよう支援を行っています。ウォシュレットなどを利用し、排便を誘導するなどして、できるだけ失禁しないよう取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄ノートで排便間隔をチェックしています。毎朝ヨーグルトを食事につけたり、午前の水分補給に牛乳を飲み、便秘予防を行っています。また、医療機関に相談し薬を処方して頂きながら調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯等、ご本人の意思を尊重し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。また、馴染みの会話をしながら楽しんで頂けるよう心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不穏にならずに安眠できるよう、優しく穏やかな関わりを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のマニュアルを利用して理解し、事故のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方の重度化により、自分でできる事が限られていますが、洗濯物をお渡しするとタンスに片づけて下さる方もいます。また、皆が参加できるような行事を数回に分け外出に出かけたり、個々に合った企画をしながら、楽しめるよう支援しています。		

グループホーム あまらんす2号館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F夢)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフや、利用者の家族とも相談しながら、近所の散歩や行事での外出や外食また、本人に欲しい物がある時には、本人をお連れし買い物して頂いてます。お盆のお寺・お墓参り、お正月の帰省等、できる限り希望に添えるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の希望や力に応じ、行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話連絡や兄弟・知人へのお手紙等、切手やはがきを購入するなどの支援を行っています。また、耳の聞こえが不自由な方には、本人を交えながら代わりに代弁しながら支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、四季折々の壁掛けや置物を置き、季節を感じられるようにしています。また、不快にならないようにトイレなども細めに掃除しています。大きな音をださないように、ゆったりと過ごして頂けるような工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いソファや椅子を多めに配置し、思い思いに過ごせるよう配慮しています。また、玄関前などにも椅子を置いて、1人になれる空間や居場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持参や、居室内での動線を考慮しながら、本人の生活に合ったその方らしい居室作りができるよう支援しています。居室にのれんを設置するなど、プライバシーに配慮しながら、居室内の風通しを良くし温度調整を行っています。居室内には温度・湿度計を設置し、乾燥する時期などにも適宜加湿器やタオルなどを使って湿度を保つように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札をかけ、わからない方には花や写真など、目印になるものをつけています。また、お手洗いの場所がわかるように、お手洗いの目印を張り付けています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あまらんす2号館

作成日：平成 30年 1月 5日

市町村受理日：平成 30年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議について、開催案内と議事録を全家族に送付し、来訪時に家族の意見を聞き取るように工夫しているが、家族の参加や意見の収集にはつながっていないため、今後の課題となっている。	ご家族の参加や、参加の出来ないご家族の意見収集ができるような工夫をします。	年間の議題を設定し、事前に、ご家族にご案内します。気付いた事や要望などを気軽に出して頂けるようコミュニケーションを取ります。	6ヶ月
2	35	災害についての訓練は実施できているが、地震や水害等のマニュアルはあるが、職員間で確認の機会を設ける事が不十分なので、今後の課題となっている。	地震や水害時等のマニュアルを職員に周知徹底させ、実践出来るように努力します。	地震や災害時等のマニュアルをもとに、定期的にミーティングで取り上げ、職員と確認しながら実践出来るよう取り組みます。また、避難場所や緊急時行動マニュアルを掲示し、職員が把握し活用できるようにしていきます。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。